

HITOTSUBASHI UNIVERSITY

一橋大学



法学部 法律学科

5.31.Thu. at Kunitachi

14:10~17:50

青木 人志 教授



「法律という興味深い窓から、日本と外国の文化の特質を眺めることがこのゼミの目的です」と話すのは、このゼミを担当する青木人志先生。同ゼミでは、アメリカ合衆国・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドなどの国々が、先住民やその自治権・土地所有権・文化享有権などを含む法的問題を過去にどう扱い、未来へ向けてどのように取り扱おうとしているのかを議論していく。

「毎回30ページほどの英文文献を読み、その内容を自由に議論します。ゼミで得られる知識は、一見同じ構造を持つ各

国の先住民問題が、それぞれの国の特殊な歴史・文化的・地理的な事情によって微妙な違いを持つことを理解するのに役立ちます。そして、アイヌ問題のような、日本の先住民問題を考えるうえでも重要な示唆を与えてくれます」と青木先生。加えて、難解で膨大な量の英語を読み進めることで確かな英語力の養成につながるという。「今日のゼミでは3年生が2名発表をしてくれるのです。一人は今日がレポートデビュー。どんな発表をしてくれるのか、とても楽しみです」

本日の文献は、カナダの先住民の法とその権利の変遷について書かれたもの。大きくはA・B・Cの3つに分かれる。Aはインディアン法、B・CはDの3つに分かれる。Bではイギリスと先住民との条約関係について、Cでは20世紀カナダにおけるアボリジニ政策についてというアボリジニは一般的な先住民の意の同化(assimilation)・適応(accommodation)そして和解(reconciliation)の変遷について、Dでは先住民の権利についてそれぞれ読み取り、最後にEの結論部へつなげていく。

正しい理解には揺るぎない英語力が必須!

前半を担当する学生は、イントロダクションにおいて「18世紀の法的文書が今日においてもカナダの先住民に対して効力を持つことが矛盾だと書かれています」と発表。「そうだね。本来先住民たちを抑圧する手段として使われた歴史的な存在である法が、逆に先住民たちの権利の根拠として現代にも残るといって複雑な状況に、矛盾があると言っているんだね」と先生が補足を加える。テキスト上では、その理由とし

「The answer may have something to do with the universal appeal of legality as a human value...」という文が続く。「このlegalityという言葉がポイント」と青木先生。その適切な表現を模索するために、英和辞典だけでなく、英英辞典も使用しながら最もフィットする表現を皆で検討する。そのうちにほかの学生たちからさまざまな意見が上がり、最適な表現に落ち着いていく。「調べていくと、問題が、法的な問題とされることと自体が重要な人間的価値であるということと関係あるかもしれない」ということになる。これに続く後の文章はどうなっている? 発表者の内容に全員で肉づけをし、青木先生が学生の意見を集約して方向性を定めていきながら、ゼミは進行していく。



林 コンラッド 倉永さん(中央) 法学部 法律学科3年 将来は国際的な環境をステージに、高い視座で日本の国益につながるような仕事がしたいです。そういう意味でもさまざまな国を法律という視点でとらえたいという内容のこのゼミは将来の仕事にきっと役立つと思っています。

松本 理沙さん(左) 法学部 法律学科4年 青木先生のゼミは毎週英語の文献を読んでいるため、課題の量も多くしっかり勉強できるゼミです。また、皆が多角的な視点を持ってさまざまな議論ができるので自分自身の視野が広がるとも勉強になります。

森 遥さん(右) 法学部 法律学科3年 もともと国際関係の勉強をしたいと思っていました。今勉強している先住民法など国際的な問題を法律という切り口で勉強することのゼミは、自分の希望にも合っていてとてもおもしろく、充実した時間を過ごしています。

あおき ひとし 青木 人志先生 一橋大学大学院法学研究科教授。専門は比較法・比較法文化論。一橋大学法学部および同大学院を卒業後、日本学術振興会特別研究員などを経て現職。学会活動のみならず、環境省の審議会委員、地方自治体の研修講師、他大学の非常勤講師、高校での講演活動など、幅広く活躍している。

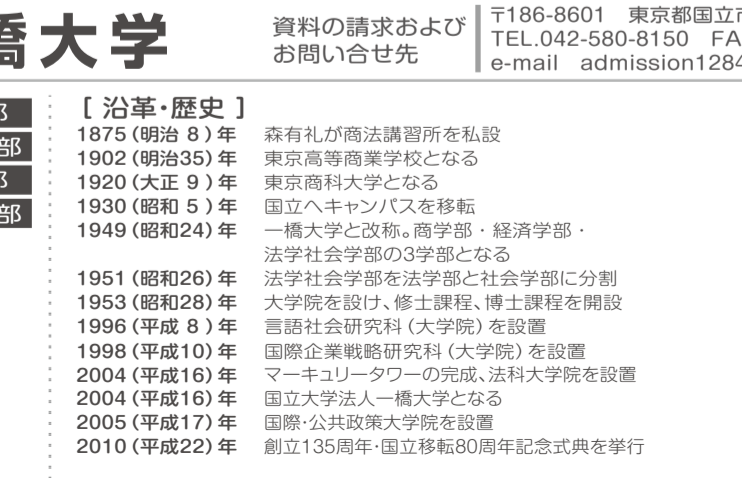
「The answer may have something to do with the universal appeal of legality as a human value...」という文が続く。「このlegalityという言葉がポイント」と青木先生。その適切な表現を模索するために、英和辞典だけでなく、英英辞典も使用しながら最もフィットする表現を皆で検討する。そのうちにほかの学生たちからさまざまな意見が上がり、最適な表現に落ち着いていく。「調べていくと、問題が、法的な問題とされることと自体が重要な人間的価値であるということと関係あるかもしれない」ということになる。これに続く後の文章はどうなっている? 発表者の内容に全員で肉づけをし、青木先生が学生の意見を集約して方向性を定めていきながら、ゼミは進行していく。

「The answer may have something to do with the universal appeal of legality as a human value...」という文が続く。「このlegalityという言葉がポイント」と青木先生。その適切な表現を模索するために、英和辞典だけでなく、英英辞典も使用しながら最もフィットする表現を皆で検討する。そのうちにほかの学生たちからさまざまな意見が上がり、最適な表現に落ち着いていく。「調べていくと、問題が、法的な問題とされることと自体が重要な人間的価値であるということと関係あるかもしれない」ということになる。これに続く後の文章はどうなっている? 発表者の内容に全員で肉づけをし、青木先生が学生の意見を集約して方向性を定めていきながら、ゼミは進行していく。

無限の知識を前に貪欲になれ!

発表が終了すると、先生は学生にこう尋ねた。「今日のレポートを聞き、これまで学んだ他国のケースと照らし合わせて、カナダ的な特徴をあげてみてください」。すると学生が次々と手を上げて「カナダは、先住民の権利を認めてやろうというような目線ではなく、植民する側の人間と先住民とが共に対等に歩んでいく」という雰囲気を感じられます」という声を受けて、次の学生はこう話した。「それは、カナダの先住民は知的レベルも高くコミュニケーションが存在するということが人間に扱われ、条約を結ぶまでに至ったからではないでしょうか。一方でそう判断されなかったオーストラリアなどの先住民は人間として扱われなかったという事実があるのだと思います」

「ゼミは、こうして人の考えを聞き、自分の意見を自分の言葉で伝える議論の作法を学ぶ場です。その大切さを実感してほしいですね。大学では広大で無限の知識の前に、教員と学生の差はあってもいいのです。共に知識を追い求める仲間として、意気込みを持って貪欲に学んでほしいと思います」と青木先生はゼミの大きな目的を教えてくださいました。



を自分の言葉で伝える議論の作法を学ぶ場です。その大切さを実感してほしいですね。大学では広大で無限の知識の前に、教員と学生の差はあってもいいのです。共に知識を追い求める仲間として、意気込みを持って貪欲に学んでほしいと思います」と青木先生はゼミの大きな目的を教えてくださいました。

「法律という興味深い窓から、日本と外国の文化の特質を眺めることがこのゼミの目的です」と話すのは、このゼミを担当する青木人志先生。同ゼミでは、アメリカ合衆国・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドなどの国々が、先住民やその自治権・土地所有権・文化享有権などを含む法的問題を過去にどう扱い、未来へ向けてどのように取り扱おうとしているのかを議論していく。

「The answer may have something to do with the universal appeal of legality as a human value...」という文が続く。「このlegalityという言葉がポイント」と青木先生。その適切な表現を模索するために、英和辞典だけでなく、英英辞典も使用しながら最もフィットする表現を皆で検討する。そのうちにほかの学生たちからさまざまな意見が上がり、最適な表現に落ち着いていく。「調べていくと、問題が、法的な問題とされることと自体が重要な人間的価値であるということと関係あるかもしれない」ということになる。これに続く後の文章はどうなっている? 発表者の内容に全員で肉づけをし、青木先生が学生の意見を集約して方向性を定めていきながら、ゼミは進行していく。

「The answer may have something to do with the universal appeal of legality as a human value...」という文が続く。「このlegalityという言葉がポイント」と青木先生。その適切な表現を模索するために、英和辞典だけでなく、英英辞典も使用しながら最もフィットする表現を皆で検討する。そのうちにほかの学生たちからさまざまな意見が上がり、最適な表現に落ち着いていく。「調べていくと、問題が、法的な問題とされることと自体が重要な人間的価値であるということと関係あるかもしれない」ということになる。これに続く後の文章はどうなっている? 発表者の内容に全員で肉づけをし、青木先生が学生の意見を集約して方向性を定めていきながら、ゼミは進行していく。



を自分の言葉で伝える議論の作法を学ぶ場です。その大切さを実感してほしいですね。大学では広大で無限の知識の前に、教員と学生の差はあってもいいのです。共に知識を追い求める仲間として、意気込みを持って貪欲に学んでほしいと思います」と青木先生はゼミの大きな目的を教えてくださいました。